

## カンクン閣僚会議閣僚声明(仮訳)

1. カンクンにおける第5回閣僚会議の終了にあたり、カンクンにおいて我々が享受した素晴らしい会議運営及び歓待に対し、メキシコ政府及び国民に心より感謝の意を表したい。
2. 我々は、WTO設立以降最初の後発開発途上国としてのWTO加盟国となるカンボジア及びネパールの加盟を歓迎する。
3. 全ての参加国は、ドーハのマandatにおいて要求されている進展を得るため、精力的かつ建設的な作業を行ってきた。実際、我々はめざましい進展を得た。しかし、ドーハで採択した約束を満たすような交渉の終結に向けて我々が進むためには、いくつかの主要な分野において、更なる作業が必要である。
4. したがって、我々は事務局に対し、緊急性及び目的に対する意識を新たにして、本会議で示された全ての考えを十分に考慮して、未解決の問題についての作業を継続するよう指示した。我々が、成果のある時宜を得た交渉結果に向けて進むことができるよう、現段階で必要な行動を行っていくため、我々は一般理事会議長に対し、事務局長との緊密な連携の下にこの作業を継続し、遅くとも2003年12月15日までに高級事務レベルでの一般理事会会合を開催することを求めた。我々は、本プロセスを引き続き監督していくこととする。
5. 我々は、本会議で行われた価値ある全ての作業を新たな段階に移行させる。文書に関して高い水準で見解が収斂した分野においては、受入可能な全体的な成果に向けた作業を行う一方で、この見解の収斂を維持することとする。
6. この挫折にも関わらず、我々は、ドーハでの全ての宣言及び決定を再確認し、これらの全面的かつ真摯な履行に努めることを改めて約束する。